

9. 抗不整脈薬により心室頻拍が誘発された症例

の検討

越谷病院循環器内科

林亜紀子、久内 格、高柳 寛、田中数彦、
中田俊之、中原志朗、酒井良彦、林 輝美、
諸岡成徳

症例1は82歳、女性。高血圧、心室性期外収縮(PVC)で通院中であり、PVCに対してジソピラミド300mgを投与していた。意識消失発作が出現しHolter心電図にて先行R-R1600 msecのpause dependentのTdpを認めた。症例2は72歳、男性。ASに対してAVR施行後AT出現し、ピルジカイニド投与するも徐脈性不整脈出現したためDDDペースメーカー挿入及びピルジカイニド150mg/日投与にて退院した。その後意識消失出現したため搬送された。モニターにてペーシングのwide QRS波形とincessant VTを交互にくり返し、DCにてVTは完全には停止できず血行動態の破綻をきたしPCPS, CHDFを使用し救命し得た。血中ピルジカイニド濃度測定にて、血中濃度低下に伴いQRS duration、QTcの短縮を確認できた。

[まとめ] 症例1はジソピラミドにてTdpが出現した。症例2はIc薬の催不整脈作用として頻発性正弦波様心室頻拍(incessant sinusoidal VT)が報告されており本症例もその可能性が疑われた。

10. ラット左室における中等度低酸素によるinducible nitric oxide synthase (iNOS) mRNAの発現

麻酔科学*, 循環器内科学**

深川大吾*, 藤井宏一*, 山口重樹*, 北島敏光*,
小林直彦**

中等度低酸素症ラットの左室心筋でiNOS messenger RNA(mRNA)の発現について調べた。Sprague-Dawleyラット72匹を対照群(空気:FiO₂=0.21吸入)36匹と、低酸素負荷群(窒素混合空気:FiO₂=0.1吸入)36匹の2群に分けて、循環動態の変動と左室心筋iNOS mRNAの発現について調べた。結果は、空気吸入群では心拍数(HR), 平均動脈圧(MAP), iNOS mRNAの発現量に有意な変化がなかったが、低酸素負荷群ではHRが低酸素負荷開始4時間後、MAPは6時間後から有意な低値となり、またiNOS mRNAの発現量は2時間後より有意に増加した。中等度低酸素症では左室心筋におけるiNOSの発現が心機能障害に関与していることが示唆された。